

2004年5月26日

金子勝教授の思い違いについて

高山憲之

昨日の朝日新聞夕刊「論壇時評」で執筆者の金子勝教授（慶應大学）は「高山憲之の『信頼と安心の年金改革』（東洋経済新報社）は・・・2階建て積み立て方式という従来の氏の主張を放棄した点で疑問が残る」と記述した。金子教授が私の著作『年金改革の構想』（日本経済新聞社、1992年）や『年金の教室』（PHP新書、2000年）を読んで、このような記述をしたとしたら、思い違いをしていると申しあげるしかない。私は従来「公的年金を積立方式に移行することは困難であり、かつ望ましくもない」と主張しつづけてきた。

公的年金（1階と2階）は賦課方式を維持するしかないというのが従来の私の主張である。かつて日本でも年金民営化論や積立方式への移行論が流行したが、その時期においても私は少数派であることを意識しながら愚直に私の主張を貫いてきた。ちなみに八田達夫教授は私のことを賦課方式論者と呼んでいる

八田・小口『年金改革論』（1999年）。私の考え方は、金子教授とご一緒に年金研究をなさっている神野直彦教授・大沢真理教授（いずれも東京大学）はご存知のはずだが・・・。

朝日新聞「文化」面・訂正記事（2004年6月3日夕刊）

5月25日付「論壇時評」の記事で、高山憲之氏に関して「消費税方式の基礎年金と2階建て積立方式という従来の氏の主張」とあるのは「消費税方式の基礎年金という従来の氏の主張」の誤りでした。訂正します。